

あゆみ

『新型コロナ四年目』

理事長 森 公夫

今年も無事に、法人が行っているそれぞれの事業が続けられましたことを、あゆみ学園に関わる全ての方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

「人間の歴史は感染症との闘いだ」といわれますが、2019年12月に中国で発生した新型コロナが、当初の予測をはるかに超える三年という長い時間を経て、なお地球上のすべての国に影響を与え続けていることにその言葉の重さを実感します。

1918年のスペイン風邪が二年で収束したという歴史から、これだけ科学や医療が発達した現代ならすべし収束するごだれもが考えていたのではないのでしょうか。結果的には、その発展とグローバル化が、世界的な感染拡大を招いたともいえます。

当初のようなパニックは収まりましたが、旅行やビジネスで人が移動するたびに大きな波が繰り返し起きていることを考えると、収束という二文字を手にするにはまだまだ時間がかかりそうです。



いまこういふ状況に置かれてみると、遠くに住む家族や親戚が集まって新年を祝い、健康をたしかめあうお正月。社会への旅立ちを祝う卒業式。新しい人生を祝う結婚式。季節を楽しむお花見やお祭り。行動を制約された数年を経験して、それらが私たちにとってどれほど大切な人生の節目であったかを再認識した気がします。

パンデミックの初め頃には、高齢者施設での面会もすべて禁止され、家族に会うことかなわず、寂しい気持ちを抱きながら亡くなっていった人もたく

さんいたと聞きます。今は感染防止対策やICTの活用で、なんとか面会も出来るようになったということですが、まだまだ昔のような形にはもどっていません。

また、新型コロナは子どもたちにも大きな影を落としました。2020年度は小中学校や高校など、ほとんどの学校で入学式が変則的になり、5月頃までは登校自粛が行われました。このことは新しく学校生活を始める小学校や中学校の一年生にとって勢いよく駆け出そうとしたとたんのストップ指令のようなもので、これを起因とする不登校がいまでも解決できないままの子どもたちは少なくないです。登校できない保育園の卒園児や、中学生になった途端に不登校になった子ども話を聞くと、本当に心が痛みます、日を追うごとに学校の敷居が高くなっている子どもたちが、一日も早く、笑顔で登校できることを心から願わずにはいられません。

さて、いよいよ2023年のスタートです。新型コロナも四年目です。暗い顔は、まわりの人にも伝わりやすから、気合を入れなおし、コロナではなく明るい笑顔をみんなに感染させていきましょう。

今年こそは、道行く人々だれもの顔からマスクが消え、私たちの人生が色彩を取り戻し、希望と喜びに満ちた一年になりますように。

社会福祉法人あゆみ学園

理念

当法人は、障がいのある子どもとその保護者を支援するため、日本基督教（キリスト）教団松山教会の青年によって始められた事業をその礎（いしずえ）とし、キリスト教の愛の精神に基づいた社会福祉事業を行い地域社会に貢献します。

『うれしさのそれだけを春の朝雀』

松山教会

牧師 上島 一高

昨年のこの欄で、初孫との対面を話題にした。その孫は1年半後、「おにいちゃん」となった。おかあさんは切迫早産のため、3か月入院した。予定日ひと月前まで宿って出産。この間、妻（おばあちゃん）も「東京出張」して協力。乳児は、M R R 検査結果への懸念も知らず、日々成長。

わたしは、誕生直後に、たまたま会議で東京に行ったが、感染症警戒期で会えず、翌月、葬儀で上京した際、退院した幼子を抱いた。しばし、いのちの重みを腕に感じると、老夫婦で「おにいちゃん」を保育園へと迎えに行く。四国に戻ると、折々に、兄

弟の画像や動画が届いた。

兄弟は、親や保育園や病院という社会制度の支えの中で育って行くだろう。ただ、それに加えてより身近なコミュニティに、手の届くところ、目の届くところにつながるって行って欲しい。思い出すのが、イエスのたとえ話「探し出された羊」だ。喜びは当の羊だけでなく皆のものとなる。

1匹の羊がコミュニティに戻って来ることは、単にその1匹や残りの99匹、また、羊飼いの一人の喜びに止まらない。それはコミュニティ全体の喜びとなる。1匹が探し出されて、その1匹のいのちと尊厳（魂）があるべき場へと取り戻されることで変化を遂げるのはコミュニティ全体なのだ。

もし、この共同体が、1匹の復帰を、「戻るべきところに戻っただけ」、「マイナスがゼロに復しただけ」と見てしまうなら、そこには何も生まれない。その1匹はまだ迷い出るかもしれない。しかし、その復帰が共同体のあり様を見直させるなら、共に育つなら、新しいものが生まれている。

他愛もないことだが、わたしも、妻の不在の3か月間、家事一切を、十分というわけではないが、担った。日々の営みを支えるのは、小さな一つ一つに手を抜かず、為すべきことを先送りしないことだと知る。ただ、強いられるではない。同居する息子、

猫、草木がそうさせてくれていた。

石川九楊の筆が河東碧梧桐二十歳の句を揮う。

うれしさのそれだけを春の朝雀

「春の朝、生まれたばかりの雀が『チッチッチ』と小ぜわしく鳴き、動き回っている。』それだけを『の詞が、この句を『うれしさ』で染め上げている。』一羽の雀を喜び多くの眼と耳を感じる句。



『ヒューマンエラー』

あゆみ学園

管理者

武智 一郎

また今年も寒い冬がやってきました。毎朝あゆみ学園の玄関先で送迎車を待っている私にとっては嬉しい季節です。年末ごろはまだいいのですが、2月に入ると防寒服に身を固めて、一大決心で外に出ていかなければなりません。それでも子どもたちは、私よりも薄着で平気な顔をしてバスを降り、教室に駆け込んでいきます。

さて、子どもが全部降りたら、車に乗り込んで点

検です。あゆみ学園では登園する子、休む子を毎日きちんとリストアップして、バスを降りる際には名前を呼びながら引き渡していきますが、それでもあちこちで起きる送迎車への幼児置き去り事件を耳にすると、

「たぶん大丈夫だろう」などと言ってはいられません。だれも乗っていないと分かっているにも目を皿のようにして車内を見回り、最後に運転手に「OK」と声を掛けます。

この置き去り事故を防ぐために、車に機械をつけることが義務化されるようで、そのたびによく聞くのは「ヒューマンエラーは必ず起きる」という言葉です。でも私は、精神を集中させている人間のエラーよりも機械の故障や不具合の方が意外に起こりやすいのではないかと思っています。ヒューマンエラーを防いでくれるのが機械ではなく、機械のエラーを防ぐのが人間。そういう気構えで当たらねば、事故は決して無くならないと思います。

精神主義か根性主義のように聞こえますが、今の時代、子どもたちを安全に預かるには、マニュアルとか何とかでなく、この古臭い「人間主義」が根本になければ…と、一人で鼻息を荒くしている園長です。



『じわからのあゆみ』

管理者

渡部 剛

今年九月に多機能型事業所の管理者に着任しました。昨年の三月まで十年間、ここで施設整備や運営業務に携わっておりましたので、利用者の方は殆ど顔馴染みですが、でも何人か見慣れた顔ぶれが転園して居なくなっており、年月の経過を感じてしまいます。

しかし、事業所の将来に係る仕事に就くからには、単に舞い戻ってきて思い出や感傷に耽るのではなく、事業所あゆみ第二幕で役を演じるため、それ相当の構想や筋書きを描かないと申訳ないとアッ！と考え込みました。その挙句、何か大層な触込みを掲げ鳴物入りで舞台に出るのではなく、むしろお客様を飽きさせないよう幕間を利用して一芸披露します、という感じで仲間に加わろうというところに落ち着きました。そして、この施設の利用者や職員等を丸ごと私が受容れる（そして私を受容れてもらう）ことから始めよう、マッサージの心で考え直してみたいと思いました。

現在の多機能型事業所の利用者の平均年齢は約32歳で、私が勤め始めた頃より10歳位高くなっています。この調子でいけば10年後には40歳になり、20年後には50歳になる勘定です。その間、利用者本人もご家族も、健康状態や生活状況等が色々と変化し、紆余曲折が待っているはずで

そこで、我々がどんなサービスを提供することが適切で望ましい支援になるのか、高齢化や介護化する地域社会の中で共生していけるのかを考えたい、やはりショートステイやグループホームのような機能ではないでしょうか。遅まきながらではありま

すが、多機能型事業所あゆみの機能強化への道筋を模索していきたいと思えます。

あゆみの名物だった無花果の木が、老木化して弱ってきたので心配していましたが、職員や利用者の丹精で若返りし、青々とした葉が茂って立派な実が生っています。あゆみ学園60周年、多機能型事業所あゆみ15周年、これまで先人が一歩一歩育て上げてきた宝物「あゆみ学園」を、この無花果のように大切に、更にそれを発展させていきたいと願っています。

『児童発達支援の今後について』 児童発達支援センター あゆみ学園

児童発達支援管理責任者 今村 高博

平成24年に児童福祉法が改正され、それまでの通園施設や通園事業などが再編され、「児童発達支援」という事業が誕生して早10年近くが経過しました。

この10年間で、同時に創設された「放課後等デイサービス」も含めて、全国的にも爆発的に事業所数が増えてきました。令和4年11月現在、松山市内においても「児童発達支援事業」は約40か所、「放課後等デイサービス事業」は約90か所も設置されています。通所形態や内容など、事業所によって特色も様々であり、利用者にとっては正に「選ぶ」ことが出来るようになった事は非常に喜ばしい事だと思えます。しかし反面、厚労省の調査によると、利潤を追求し支援の質が低い事業所や適切でない支援（例えばテレビを見せているだけ）を行う等、必ずしも「発達支援」とは言えないような事業所も少なからず存在するようです。

このような状況を受けて、令和6年度の児童福祉

法改正に向けて「障害児通所支援の在り方に関する検討会」が行われ、令和3年10月に報告されました。その中で「児童発達支援センターの方向性について」も示されており、今後より一層、地域においての発達支援に関わる中核的な機能が求められるようになっていきます。

その主な内容は、

- ① 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能
- ② 地域の通所事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能（事業所に対する支援内容等の助言など）
- ③ 地域のインクルージョン推進の中核としての機能
- ④ 地域の発達支援の入り口としての相談機能に なります。

平成24年の改正から約10年。サービスの「量」は増え一定の成果があったと思われれますが、今後は「質」が問われる時代になります。

利用者にとってより良い「選択」ができるよう、地域を面で捉え、情報を整理したり、質の向上に努めたりと、地域におけるセンターの役割は益々重要になってくるものと思われれます。

『給食室から繋げていくもの』 児童発達支援センターあゆみ学園

栄養士・調理員 酒井 千佳

あゆみ学園では毎月、「行事」「季節」にちなんだ献立や、食材を給食に取り入れています。

行事食には、子供の健やかな成長や様々な祈りが込



められ、今でも伝え継がれています。

例えば、一月…七草（鶏肉と七草の混ぜご飯）、五月…そら豆（えびとそら豆のかき揚げ）、七月…たこ（もち飯）、八月…ゴーヤ・かぼちゃ・とうもろこし（かき揚げ）、

九月…里芋（芋炊き）、十月…さつまい芋（焼き芋・ふかし芋）。

しかし食材の中には子供たちにとっては食べにくい物もあります。日常の給食で進んで食べてくれる、食べやすい献立に旬の物を取り込み、少しでも食べやすく工夫しています。

旬の食材は新鮮で水々しく、その時期にしか味わえない甘味のある美味しさを感じられる、栄養豊富な食べ物です。園の行事と重ね、子供たちには季節や味を少しでも感じてもらう、食への関心や楽しみに繋げられるよう、保育職員の言葉かけの大切な栄養と共に、給食室からも力になれるよう、これからも食育の大切さを広げ続けていきたいと思えます。

『むすびのひなまつり』
児童発達支援事業むすびの

保育士 谷久 詠美



あゆみ学園に就職して、4年が経とうとしています。

今年は、元気いっぱい1歳〜6歳の36名の子とも達と過ごしています。年齢の異なる子ども達とたくさん関わることができるのは、ほんのりの職員ならではの感じています。

4月当初は、お母さんと離れることに泣いている子どもも多くいました。最近では、自分から鞆を開けて荷物の片付けをして、笑顔でバイバイすることができるようになっていきます。年長さんにもなる園であったことを「先生、幼稚園で〇〇したよ」と教えてくれる子どももいます。

日々、保育をする中で私が子ども達から学ぶことも多く、刺激をもらう毎日です。就職したばかりの頃は、子ども達の前で絵本や手あそびをするだけでも、とても緊張したのを覚えています。それでも、子ども達は一生懸命に見てくれたり真似をしたりしてくれました。その中で、子ども達の表情や反応を見ながら一緒に保育をする楽しさや面白さを感じることができています。

どんぐりという場所を通して、子ども達が安心してできる場所になるように、たくさん遊べるを通して、成長を見守ってまいります。

『今年のニュースと癒し』
あゆみ学園指定相談支援事業所

相談支援専門員 梶原 佳代

今年度8月から10月末にかけて、愛媛県障がい者相談支援従事者現任研修を受講しました。まず8月にeラーニングにて講義受講。9月と10月に計3回オンラインにて演習。第1回から2回の演習の間と、第2回から3回の演習の間にインターバル実地研修がありました。平成31年から新カリキュラムになっているのですが、前回受講したのが平成28年であったため、新カリキュラムとなって今回初めての受講でした。通常業務の中での研修であったため、大変ではありましたが、「意思決定支援」「相談支援専門員としての地域との関わり」「グループスーパービジョンについて」等、普段どうしても通常業務に追われて、ゆっくり考えられない内容についてより深く学ぶことができました。またこのような研修を受けて毎回感じるのですが、普段担当者さん・担当児さんを通して、福祉サービス事業所の職員さんとは、事業所訪問したり、状況共有したり等、接することが多いのですが、同じ相談支援専門員と関わることは少なく、その横のつながりを深めることもでき、とても良い機会となりました。またインターバル研修では、松山市南部地域相談支援センターにてアドバイスや助言をいただくこともでき、普段相談を受ける立場ではあるのですが、相談支援専門員が困った時に、相談できる場所や人がいることも分かり心強く感じました。コロナの影響にてなかなか対面での研修が少なく、今回もオンラインが主での研修となり、その点だけ少し残念ではありましたが、たくさん学ぶことができ良い機会となりました。受講させていただきありがとうございました。

さて、皆さんは今年何か変化ありましたでしょうか。私事ですが、猫を飼い始めました。ある日突然、うちの前に現れた猫。とても小さく、でも周囲には親猫の姿がなかったため、飼うことにしました。しかし家族全員初めての猫のため、お世話の仕方すら、人に聞いたり、ネットで調べたりしながらの日々。順調に大きくなり、今ではテブ猫ちゃんになりつつ、毎日癒しをもらっています。今回受講した相談支援従事者現任研修でのグループワークでは、同じグループの方、猫を飼っている方も多くいて、その話題でも盛り上がり、研修という少し疲れた雰囲気も明るくしてくれる話題となり、ここでも猫の存在で癒しをもらうことができました。

今年の皆さんのニュースや癒しは何でしたか？ 普段の相談以外でも、私を見かけたら、皆さんの今年のニュースや癒し等教えてください。



『一緒に成長する保育士』
小規模保育事業所ひかり

保育士 西上 晴香

今年で保育士になって2年目になります。以前は子育て支援員と調理補助で子どもたちとかわっていましたが、もっと子どもたちと関わりたいと思うようになって、2年がかりで保育士試験に合格することができました。子どもたちの遊びには驚きがいっぱいです。空を見上げて飛行機を探したり、雲を「おぼけみたい」とはしゃいでいる子どもの姿を見ると私もうれしくなります。まだ苦手だった虫も、子どもたちと虫探しをしているうちに捕まえられるようになりました。今では子どもたちとプランターを持ち上げて、「今日は何がいるかな」といっしょに探すのが楽しみになっています。自分の保育を振り返って、子どもの気持ちに寄り添った丁寧なかかわりができているかと悩むこともありですが、みんなの笑顔に、「出来ることから一つずつ頑張ろう」と元気をもらっています。これからも子どもたちと一緒に、日々成長していきたいと思っています。

『保育士を目指して』
企業主導型保育事業所あゆみ保育園

保育支援員 岡本 愛莉

小さい頃からなりたかった保育士という夢を諦め、違う道に進んだ4年前。しかし、就職活動をする時一番に探していたのは「子どもと関われる仕事」でした。あゆみ保育園に就職して、毎日色々な表情を見せてくれる無邪気な子どもたち、その子どもたちのために最善を尽くす先生方の姿をみて「な



りたかった。「保育士の夢が、いつからか「なりたい。」に変わっていることに気がつき保育士試験を受けることに決めました。

あゆみ保育園に就職していただければ挑戦していかないと思います。保育士を目指さずきっかけをもらい、頑張りたい!と思える環境で働けていることに感謝しています。今はまだ保育士に「なるため」のスタートラインに立

ったばかりです。速回りしていると感じる時がありますが、いつか自分の通ってきた道はどれも意味のある選択だったと思える日が来るよう、日々沢山のことを吸収して自分の引き出しを増やしていきたいと思っています。

『悟りの境地とは』

多機能型事業所あゆみ 生活介護事業

生活支援員 丸山 和也

最近、ランニングを通じて、少し年上の男性の方と知り合いになった。ほくは基本的に人見知りなので、ランニング中にすれ違ったランナーに話しかけるなんてマネは、とてもじゃないができない。しかしその方は実に社交的な方で、気が付くといつの間にか一緒におしゃべりをしながら走っていた。話を聞くと案の定、ランニングを通じてたくさん仲間がおられるようだった。

とりあえず連絡先を交換し、また別の日も一緒に走ることにした。長時間のゆるランニング中は基本的に「マナー」で、話はたくさんしてはいけない。

(普段は専ら一人で走っているので音楽を聴きながら走っている。)その話の中で、その方が今、仏教に興味があって自分なりに勉強をしているという話になった。たまたま自身自身二十代の頃に、 TENT を背負って野宿しながら歩いて四国八十八か所を巡ったことがあったので、そのことを話すと興味津々のようだった。

その方のほくに対するイメージとしては、歩き遍路をするくらいだからよっぽど仏教に対する信仰心が厚いのだろう、というものだったようだが、あいにくほくは胸を張れるほどの信仰心は持ち合わせてはいない。そもそも歩き遍路をしようと思っただけも、亡くなったじいちゃんも若い頃に歩き遍路したって言ってたし、失業状態で人生に絶望して腐ってるくらいなら、とりあえずやってみるか、という感じだった。まあ、とは言うものの、せっかくやるんだったら基本的な作法ぐらいは踏襲しておこうと思い、ガイドブックのようなものは携帯しながら歩いた。

話をフンさんと走っている時に戻そう。そのラ





ン友さんから直球の質問があった。「歩き遍路をやってみて、悟りは開けた?」「うむ、これは返答に困った。とりあえず歩いてきた時のことを思い返してみた。五日ぶりの入浴は、気持ち良過ぎて身体が溶けそうだった。一週間ほど魚肉ソーセージと食パンしか食べてなかったタイミンで、お接待でいただいた温かいご飯とみそ汁を食べた時は、美味しいを通り過ぎて舌の味覚センサーが過剰反応をしてびりびりと弾け飛びそうになった。道に迷ってしまっって真っ暗な山道を夜明けまで歩きつはなしだった時は、頭の中で般若心経が繰り返り続け、結果的に精神的苦痛を和らげて

くれたこともあった。

不信心なほくが言っても説得力がないかもしれないが、これらの体験は、「悟り」の一步手前だったと自分自身感じている。

要するにほくにとつての悟りとは、日常の中に溢れている「当たり前有難さ」にいかにか気付くことができるか、いうことである。当たり前息を、当たり前前に食べ、当たり前前に歩いて、当たり前前に聴いて、当たり前前に見て、当たり前前に車を運転して、当たり前前に帰る家があって当たり前前にそこで寝る。例を挙げればキリがないが、当たり前前にしていることは実は全然当たり前ではなくて、いつできなくなってもおかしくない有難いモノなんだということである。日常生活の中ですっといけると、その有難さに気付ける瞬間を見逃しがちだ。だからみなさんもぜひ歩き遍路を…と言いたいところだが、一般の方にとってはそう簡単にできるものではないですよ。そこでおススメなのが、最初の話に戻るが「ランニング」である。20kmも走ってエネルギー切れ寸前になれば、当たり前前に息もできなくなり、当たり前前に足も動かなくなる。その後の水分補給と入浴は、本当に心身に染み渡る。当たり前前に健康に生きていくことの有難さに改めて気付かせてくれる。だからみなさんもぜひランニングを…って、これでも一般の方には十分ハードル高めですかね。すみません。あつ、半年間ほど車中生活してみるのもおススメですよ!

『日本人らしさ』

多機能型事業所あゆみ 就労継続支援B型事業

生活支援員 杉野 啓太

先日カタルで行われたワールドカップサッカー



1での日本人選手たちの活躍は皆様の記憶に新しいと思います。

強豪ドイツを初戦で下した際の本国民の盛り上がり、この調子で次に対戦するコスタリカ

には誰もが勝利すると思ひ込んでいました。ところがまさかの敗戦。超強豪国のスペイン戦を控えていたこともあり、予選敗退が濃厚と考えていた方も多かったはず。まさに「絶対に負けない戦い」で日本はあの無敵艦隊スペインに逆転勝ちを収めました。後々考えるとコスタリカ戦での負けがより喜びを爆発させる良いスパイスとなり、まるで優勝したのかと思わせるほどの熱狂ぶりでした。選手たちが粘り強く、日本人の特性に合った規律を持った守備からのカウンター戦術。森保監督は選手たちをよく観察し、日本人の特性を十分に理解していたのでしよう。これら予選での戦い一連を見て、あきらめない心と力を合わせるこのすばらしさと重要性をあらためて学びました。これから今後の日本代表がベスト8、そして優勝をも目指すためには何が必要なのか、事細かく持論を述べたいところではありましたが、サッカー好きが止まらなくなりそうなのでこの辺にさせていただきます。

前置きがとても長くなってしまいました。このあきらめない力強さと先制点をゆるしても粘り強く守備を続けたというところに日本人らしさがあり、勝機があったのではと考えています。自分たちができる事を冷静に、そして地道に進めていくことの重要性を感じました。

私は今年度からB型の利用者様と共に、農耕作業中心に活動させていただいております。農作物をしっかりと育てていく上では草引きなどのコツコツとした工程が大変重要であり、まさに粘り強く続ける事と日本人らしく地道に行うという事が重要です。こういった作業を行う姿勢には利用者様から学ばせていただくことも多く、暑い中でも寒い中でも地道に続けていける忍耐力に大変驚いています。また大きな苺や無花果がたくさん収穫できた際には素直に感動し声を上げ喜びという純粋さにも触れさせていただき、思わず笑顔がこぼれます。

今年度も収穫する喜びをみんなで分かち合うためにも、日本人らしく日々の地道な工程を大事にしていき、収穫期にはまるでワールドカップで優勝したように喜んで、利用者様と共に「プラーボー！」と叫ぶことができたなら幸せだなと思っています。



あゆみ学園

父母の会 役員紹介

◎ 会長 矢原 公美子

今年度、会長を務めさせて頂いております。まだまだコロナが続いておりますが、その中でも子供たち保護者の皆様に沢山楽しんで頂けるよう役員一同、精一杯務めさせて頂きます。宜しくお願い致します。

◎ 副会長 井上 なつみ

今年度、副会長をさせて頂いております。任期も残りわずかとなりましたが、子供達が楽しい園生活を

過ごせるよう最後まで精一杯努めさせて頂きます。よろしく申し上げます。

◎ 副会長 伊狩 彩

今年度、副会長をさせて頂いております。コロナ禍で制限がありますが、子どもたち、保護者の皆様に笑顔が増えますよう、残りの任期も務めさせて頂きます。宜しく申し上げます。

◎ 会計 大西 桃子

今年度、会計をさせて頂いております。先生方や保護者の皆様のご協力を頂きながら活動して来られました。残りの任期も責任を持って務めさせて頂きます。

◎ 書記 河野 加奈子

今年度、書記をさせて頂いております。先生方や保護者の皆様のご協力を頂きながら活動してきました。残り少ない任期も精一杯務めさせて頂きます。

多機能型事業所あゆみ

家族会 役員紹介

◎ 会長

◎ 副会長・書記

◎ 会計

◎ 監事

◎ 監事

谷本 加代

森田 静香

首藤 ゆか

竹村 洋子

野村 りえ

今年こそはと願っていたコロナ終息ですが今年

度も昨年同様、思ったような活動がなかなかできませんでした。

その中でも、事業所では工夫しながら活動して下さり子供達も元気に過ごす事ができました。来年こそは通常の活動ができるようになる事を願っています。



お知らせ

・令和3年度の苦情受付に関して各事業とも受付件数0件。処理件数0件でした。

・決算書類や事業案内は、社会福祉法人あゆみ学園ホームページに掲載しております。

〒790-0047 松山市余戸南6丁目6番9号
社会福祉法人あゆみ学園
 児童発達支援センターあゆみ学園
 児童発達支援事業どんぐり
 ayumi-g@bz01.plala.or.jp
 HP Tel 089-972-0999 Fax 089-972-3511

〒790-0047 松山市余戸南6丁目3番26号
多機能型事業所あゆみ
 生活介護事業所あゆみ
 就労継続支援B型事業所あゆみ
あゆみ学園指定相談支援事業所
 ayumi-s@ksn.biglobe.ne.jp
 Tel 089-974-5141 Fax 089-907-6100

〒790-0912 松山市畑寺町843番地1号
多機能保育事業所あゆみ
 小規模保育事業所ひかり
企業主導型保育事業所あゆみ保育園
 Tel 089-948-4402 Fax 089-977-4412